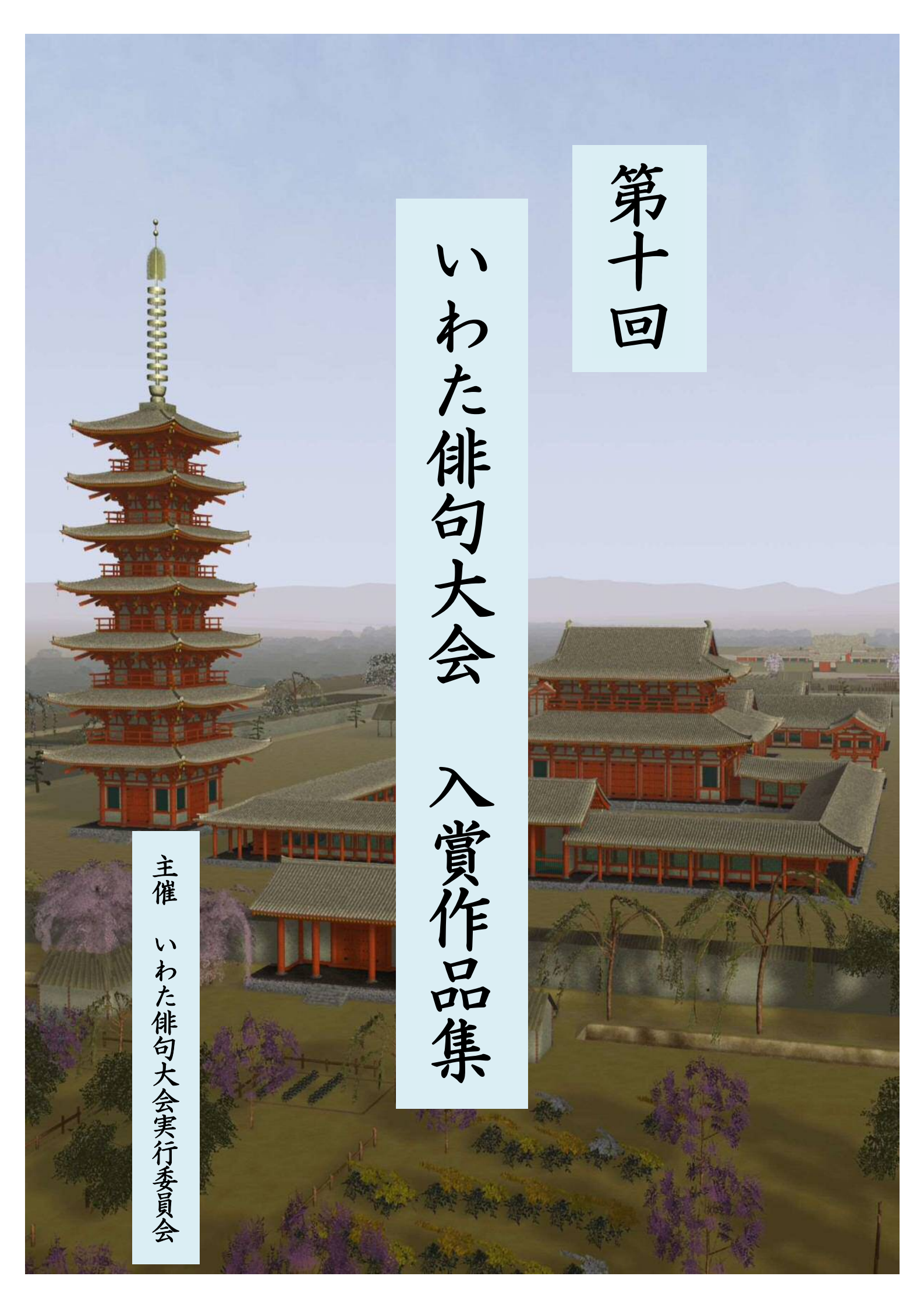




第十回

いわた俳句大会 入賞作品集

主催 いわた俳句大会実行委員会

第 10 回いわた俳句大会

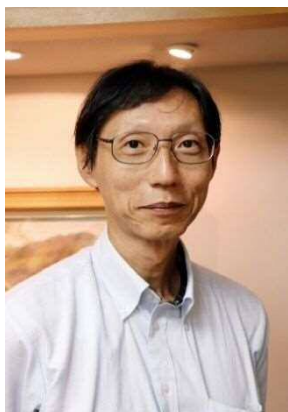
1 表彰式・俳句未来塾 次第

- ・開催日 令和7年2月9日（日）
- ・会場 ワークピア磐田
- ・日程
- 11：00 開場・当日句（季語：冬または春）受付
- 12：00 当日句受付終了
- 13：00 開 会
- 事前投句 表彰式・選評
- (休 憩)
- 14：05 俳句未来塾 「言葉の技」
- (休 憩)
- 15：25 当日句 表彰式・選評
- 16：00 閉 会

2 入賞作品

- ・一般の部 3 頁
- ・中高生の部 7 頁
- ・小学生の部 11 頁

大会選者 (五十音順)



きしもとなおき
岸本尚毅 先生

岡山県出身。俳誌「天為」「秀」同人

1993 年第 16 回俳人協会新人賞、2012 年第 26 回俳人協会評論賞など受賞。著書は、句集「雲は友」、評論集「俳句講座 季語と定型を極める」、編著「新編 虚子自伝」など多数。

角川俳句賞などの選考委員、岩手日報・山陽新聞俳壇の選者など。



たかやなぎかつひろ
高柳克弘 先生

静岡県出身。俳誌「鷹」編集長

2008 年 第 22 回俳人協会評論新人賞、2010 年 第 1 回田中裕明賞、2023 年 第 46 回俳人協会新人賞を受賞。

著書は、句集「未踏」、評論集「究極の俳句」など多数。

中日俳壇選者。2024 年 6 月に評論集「現代俳句ノート 名句を味わう」を刊行。



つしまやすこ
対馬康子 先生

香川県出身。俳誌「麦」会長・「天為」最高顧問

現代俳句協会副会長、産経新聞俳壇選者。

2015 年 永年の作句活動、国内外の俳句振興への貢献により、文部科学大臣表彰を受ける。2018 年 第 10 回桂信子賞など受賞。

著書は、句集「愛国」、「純情」、「天之」、「竟鳴」など多数。

いわた俳句大会 入賞作品

一般の部



岸本 尚毅 選

特選

入選

鬼踊裸の上に裸ゐて 湯澤 誠幸

つなぐ手は百歳であり秋祭 浅野 数方

秋天や聯隊の門高かりき 友田喜美子

秀逸

目が覚めてきのふのよるの鬼踊 湯澤 誠幸

後の月太鼓の響きドン・カッカ 秋山 寧子

野の草を手折りて母は月の客 林 游実子

秋祭水垢離の身をぶつけ合ひ 桂 みさを

濁世へと躍り出でたる鬼踊 村松 道夫

天高し見付の宿にちんどん屋 高橋とし子

玄関に椅子を出したる生身魂 幹子

高柳 克弘 選

特選

入選

こしみの稚子もう裸まつり顔 古橋 廣一

竹馬や男の子に負けぬわれのみし 鈴木みちゑ

野の草を手折りて母は月の客 林 游実子

秀逸

媼群れ翁はひとり日向ぼこ 八久保エイ子

鬼踊賽銭箱を脇へ遣る 嶋田 好二

夕陽へとかはる太陽稲の道 大場 裕子

未来明るし新米を頬張りて 市野 恵子

秋祭明けて親子の禪干す 中川 正男

蛇消えて口中乾ききつてをり 林 浩世

山車過ぎて踏み潰されし柿一つ 野勢真由美

対馬 康子 選

特選

入選

豊の秋草木に蝕まれゆく時代 植田 密

つなぐ手は百歳であり秋祭 浅野 数方

早星アンネはいまだ隠れ部屋 高橋 和代

秀逸

なにもかも裸祭の月夜かな 湯澤 誠幸

鬼踊り平和を祈り鬼となる 喜多 周子

嵩のなき母の髪梳く良夜かな 林 游実子

裸祭はやけに明るいバナナチョコ 袴田 一博

少年は青年の顔 秋祭 永井千恵子

鬼をどり遠州灘を響動せり 花房 なお

鳥渡るうみのほとりに火を焚いて 兵藤 恵

いわた俳句大会

入賞作品

中高生の部



岸本 尚毅 選

特選

夕風は夕日を送る静けさか 浅倉 大碧

あれ食べたい弟抱え枇杷をもぐ 岩谷優衣花

お母さんお味噌汁にさつまいも 糟谷 貫太

秀逸

ドンドンドン新月の中りんごあめ 山本 笑海

暑い昼空をみあげた木下闇 田島 脩真

暗いまち月も祭も大移動 本間 大稀

二学期に入るプールはやや寒い 鈴木 優進

帰り道蜻蛉が過ぎゆく家族かな 河合 秀果

光灯る耳に響くは秋の暮 丹羽あさひ

太鼓の音迫りくる冬発つ人よ 山下 蒼人

高柳 克弘 選

特選

入選

拝殿に燎原の火や鬼踊り 尾田 晃文

気がつけば祭囃子の渦の中 酒井 花果

あれ食べたい弟抱え枇杷をもぐ 岩谷優衣花

秀逸

書き取りす我にせつせと扇風機 小澤 朋恵

ユニフォームもう懐かしい夏休み 河村 璃南

棒高の踏み切り一瞬宙涼し 鈴木 風来

耐えきった期間限定いもづくし 渡辺 萌衣

秋はどこどこでかい夏はまだ続く 加藤 心良

鳥の巢の声は聞こえずカラスいる 柴田 翔真

月見より勉強してと母の声 都筑日那乃

対馬 康子 選

特選

拝殿に燎原の火や鬼踊り 尾田 晃文

りんごあめ花火見ながら食べる君 尾中 優芽

正月の冬の廊下でくしゃみかな 濱崎 天翔

秀逸

夏祭り火薬の香る帰り道 原 沙知

受験期や濡れた瞳で前を向け 渡邊 麗菜

夕風は夕日を送る静けさか 浅倉 大碧

紫陽花の水がしたたる暗い夜 片山 ゆい

太鼓の音迫りくる冬発つ人よ 山下 蒼人

ひまわりやしあわせそうに上向いて 水川 幸音

炎天下かえるねころぶアスファルト 太田 一呂

いわた俳句大会

入賞作品

小学生の部



岸本 尚毅 選

特 選

おとうさんきつねのおめんありがとう

山田惺來世

入 選

うえをみてくらくなつたよくらいなあ

鈴木 玲

おまつりでなわを引っぱり手があつく

伊藤 淳

いわしぐもあさになるとうかんでる

東 快智

秀 逸

雨ザーザさくらの花びらかさにつく

中川 琴葉

みあげると木のすきまからかがやいて

高井茉莉未

むかしにねだいにちどうでラムネのむ

鈴木 大翔

あきまつりかせぐ人たちががんばって

大森恵美子

古川ときれいにさいてるひがんな

鈴木 遥琉

秋の雲うすく青空見えている

鈴木 皐

高柳 克弘 選

特 選

秋の雲うすく青空見えている 鈴木 皐

マイクラでおまつりやたいつくったよ 鵜飼 直希

みつけたよかれたおちばのもりのかみ 小杉 侑

秀 逸

おまつりでいっぱいつかれてよくねれた 村田 蒼羽

母の日にせんようコップかうんだよ 伊藤 晶

ヒガンバナ水車の里にさいている 佐藤 有真

どんぐりがあたまにおちたラッキーだ 稲垣 颯

曾祖父の植えし栗の実ぼくの手に 森 奏人

いねかり機通った後はすっからかん 高橋佑有奈

友だちと夜までいれるお祭りだ 青島 汐亜

対馬 康子 選

特 選

まんげつはすすきのはがねそよいでる

岡田 結月

めぐり行く仏の祭りいわいあう

柴田 柚舞

くらい空空のろうそくお星さま

東 柊花

秀 逸

夏の日をさえぎる木々はほほえんで

岩本 樹

どんぐりがあたまにおちたラッキーだ

稲垣 颯

夏すぎてたいこの音がきえてゆく

大石 楓真

秋祭りたいこの音が交わって

大石 蘭

ガサガサとほうきの音が秋深し

太田 慈

入 選



第十回いわた俳句大会

発行日 令和七年二月九日（日）

編集・発行 いわた俳句大会実行委員会

問い合わせ先 いわた俳句大会実行委員会事務局

（磐田市教育委員会事務局教育部教育総務課）

〒438-8650

静岡県磐田市国府台三十一

TEL 〇五三八―三七―四八二一